なぜ就労支援を使っても採用と定着に至らないのか

人事課題×就労支援　竹内一法

Gemini Notebook

INTRODUCTION

障害者雇用を前に進めるための3つの視点

就労支援を利用しても就職に至らない方が存在します。
この事実は自社の受け入れ体制を見直すヒントになります。
求職者がつまずくポイントを企業側の課題として捉え直し、
人事が持つべき3つの視点として整理しました。

- ✓ 「選びすぎる」罠に気づき、接点を増やす
- ✓ 支援機関への「丸投げ」を防ぐ体制をつくる
- ✓ 「焦り」を和らげ、本音を引き出す対話を行う

Q. 障害者採用において、今一番課題に感じていることは何ですか。

Gemini Notebook

OVERVIEW

採用と定着を阻む3つの壁とその乗り越え方

求職者が活動でつまずく背景には、
企業側にも共通して起こりやすい課題が隠れています。
双方が陥りやすい3つの壁の全体像を把握し、
自社の採用活動を振り返るための羅針盤です。



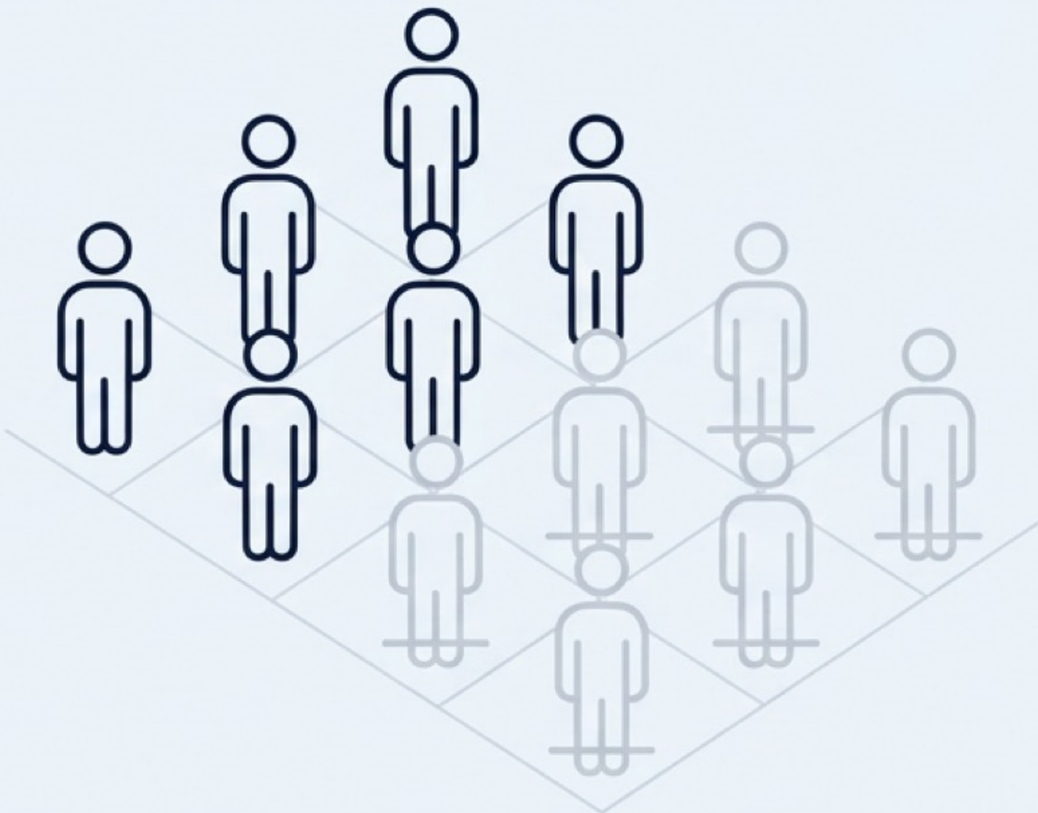
Q. 自社の採用活動は、この3つの壁のどこにぶつかっていそうですか。

Gemini Notebook

REALITY

就労支援を利用しても、就職に至らない現実がある

手厚い支援を受けていても、全員がすぐに
就職できるわけではありません。
現場では、多くの方が
現場では、多くの方が就職に至らない実態があります。
この現実は、採用活動そのものの難しさを示しています。



- 業界全体で3割程度が就職に至らない（現場の実感として）
- 地方によっては5割を超えることもある(現場の実感として)

Q. 就労支援を利用していれば必ず採用できると、期待していませんか。

Gemini Notebook

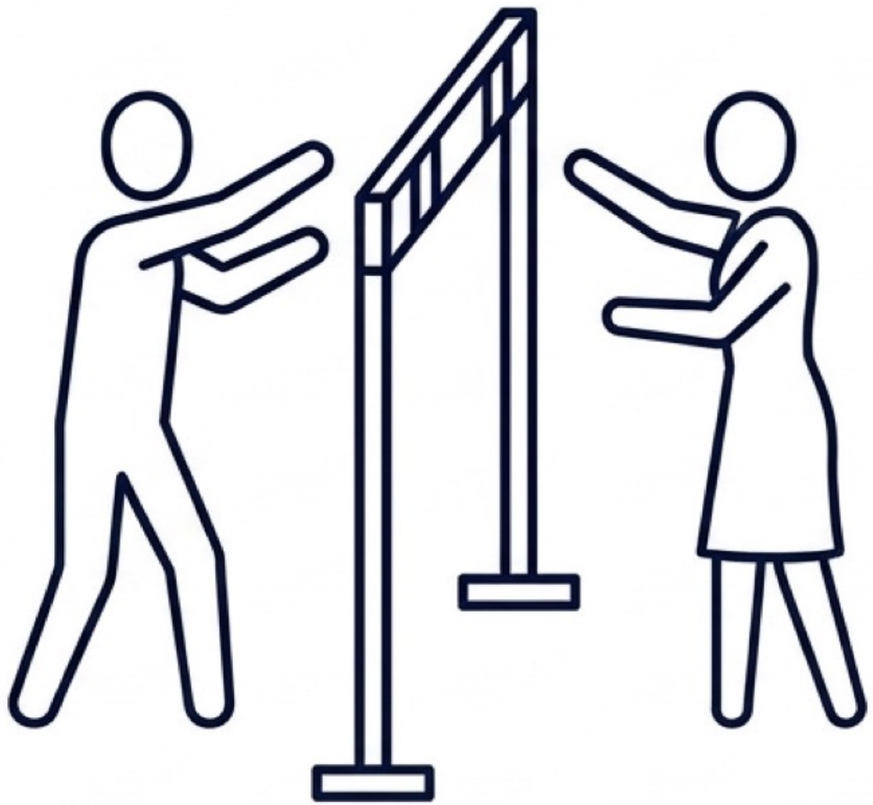
HIRING

失敗を恐れる「選びすぎ」が、出会いの機会を奪う

求職者は失敗を恐れ、入社前から分析しすぎて
一歩を踏み出せず、タイミングを逃してしまいます。

これは企業側も同じです。求める条件を厳しくしすぎると、
自社に合う人材との出会いを自ら逃してしまいます。

- 求職者は求人を選びすぎて踏み出せない
- 企業も完璧な人材を求めて選択肢を狭めている
- お互いのハードルが高く、すれ違いが起きている



Q. 採用の条件を厳しくしすぎて、自ら選択肢を狭めていませんか。

Gemini Notebook

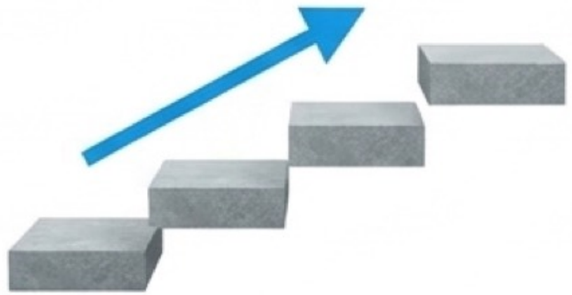
ACTION

完璧を求めず、まずは接点を持つ仕組みをつくる

頭で考えるより、まずは行動する機会を作ることが重要です。
求職者には「まずやってみよう」と背中を押す支援が有効です。
企業側も、面接だけでなく職場見学や実習など、
気軽にお互いを知る接点を設けることで採用が前に進みます。

・一回の面接で決める





・数多くの接点を持つことで自社に合う人材がわかる
・ダメでも次があるという前向きな環境を用意する

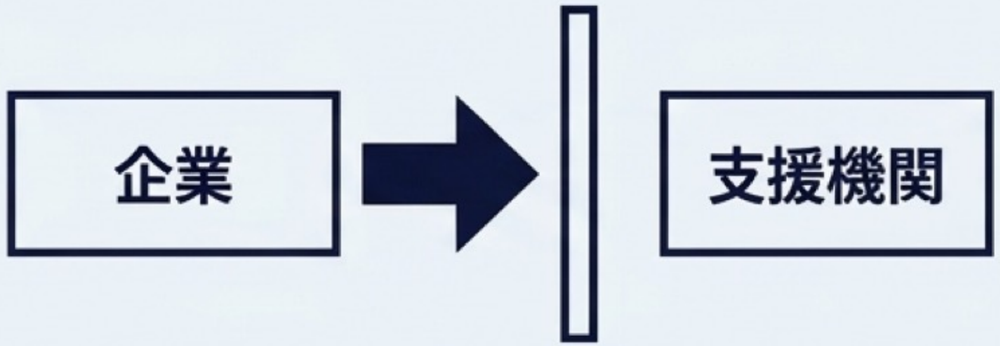
Q. 候補者が「まずはやってみよう」と思えるような、気軽な接点はありますか。

Gemini Notebook

REALITY

支援機関への「丸投げ」は、採用の失敗を招く

支援機関を使えば自動的に就職できると思い込む姿勢は、良い結果を生み出しません。自ら努力せず支援に丸投げすると、採用には至りません。企業側も同様に、支援機関に任せきりにする傾向があります。



- 支援機関を使えば絶対就職できるという誤解
- 当事者自身が自分を客観視し、努力する必要がある
- 支援機関にすべてを委ねると定着の壁にぶつかる

Q. 採用や定着の課題を、支援機関のし力だけで解決しようとしていませんか。

Gemini Notebook

TEAMWORK

企業も支援機関に頼り切らず、共に取り組む

支援機関は、主体的な行動を加速させるための存在です。
すべてを任せるのではなく、企業自身が当事者と向き合う
姿勢が欠かせません。
自社の課題として捉え、二人三脚で進める関係が理想です。



- 支援は主体的な行動を加速させるためのもの
- 企業側も当事者に向き合う責任を持つ
- 支援機関との信頼関係が採用成功の鍵となる

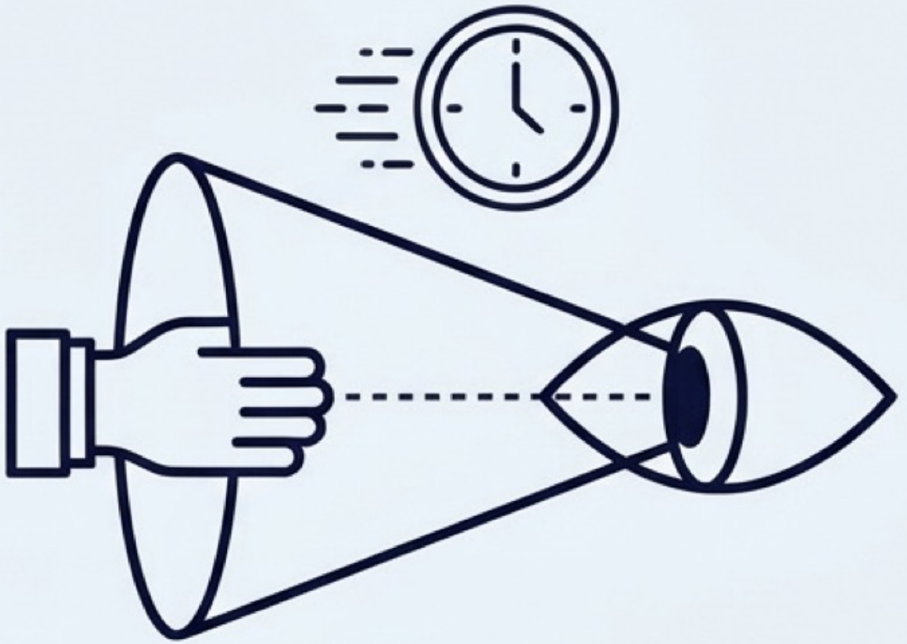
Q. 支援機関担当者と、自社の課題について率直に意見交換できていますか。

Gemini Notebook

REALITY

「焦り」が視野を狭め、本音の対話を阻んでしまう

早く就職しなければと焦るあまり、自分に合わない環境を選んでしまうことがあります。また、支援側との間に溝があると本音が言えません。企業側も採用を急ぐと、候補者の本音を見落とします。



- 焦るあまり、合わない選択をしてしまうリスク
- 信頼関係がないと、本音を打ち明けられない
- コミュニケーション不足が定着を阻む大きな原因

Q. 採用目標の達成を急ぐあまり、候補者の本音を見落としていませんか。

Gemini Notebook

RETENTION

焦る気持ちを受け止め、じっくりと関係を築く

焦る気持ちを否定せず、受け止めた上で
「焦りながらじっくりやる」視点が大切です。
入社後も、本音を言い出しにくい背景を理解し、
企業側から歩み寄ってコミュニケーションの溝を埋めます。



- 焦る気持ちに寄り添いつつ、慎重に見極める
- 本音を言えない背景を理解し、向き合う
- 企業側から声をかけ、話しやすい関係性を築く

Q. 従業員が失敗や不安を、ためらわずに相談できる相手は社内にいますか。

Gemini Notebook

SUMMARY

完璧を求めず、共に歩み、じっくり対話する

考えすぎて立ち止まる前に、まずは小さな接点から「やってみる」ことを始めましょう。



人事課題×就労支援 竹内一法

Gemini Notebook